

移転雑感

理学部生物学科動物学教室 嶋田 拓

移転してきて三カ月ほどたち、やっと新キャンパスに慣れてきたところである。窓から遠い山々を一望するのも気持ち落ちつき、夕焼けの茜色もすばらしい。前任の大学では研究室が階階にあつたし、東千田町では一階ではあつたが窓のすぐ外は旧い大きな倉庫であつた。どうしようもない会議が続いた後など、自室に戻って窓外の夕景色をぼんやりと眺めながら自分の本業は何だろうといささかの反省をできるのも都会の喧噪を離れた新キャンパスなればこそであろう。

私が広島大学に来たのは三年半ほど前の昭和六十三年六月で、すぐにも移転するように聞いてきたのであるが、実際に移転するまでにそれから三年余もたってしまった。この間、教授会的主要議題は理学部移転のことで、私も翌年からさっそく統合移転委員会のメンバーを仰せつかり、移転準備に励むことになった。建物新営費で購入する物品の選定など結構面倒な作業で、選定

委員会の委員長は各学科の意見や希望をまとめるのに本当に大変であつたろうと思う。すべてが希望通りになつたわけではないが、実験台、作業台、ドラフトなどに関しては東千田町から運び込んだ物を合わせると動物学教室としては一応の体裁が整つたのではないだろうか。実験科学研究室の整備について非常な理解を示して協力して下さつた理論科学分野の方々に感謝したい。

新しい実験室の使い勝手は私としてはそんなに悪くないと思つている。もちろんガス、給排水、電源など講座実験室内部の設計についてはしまつたと思うこともいくつかあるが、図面の上でいくら工夫しても実際に出来上がつてみないと分からないことも多く、やむを得ないであろう。広島に来る前に移転の先輩である筑波大学の友人達からいろいろ教えて貰つたことも大いに役に立つた。

この夏は移転騒ぎでいつものまにか過ぎてしまつた感がある。動物学教室で

も夏前から移転のための荷作りに追われ、研究室の中に段ボールがうす高く積み重ねられている研究室もあつた。狭い研究室でもずいぶんいろいろな物が詰め込めることを改めて実感した。私のところでも、広島大学に移つてきたときから一度も開いてない段ボール箱がかなりあり、不用品とみなしてこの際捨ててしまつた。思い切つて捨てるのにはかなりの心理的抵抗があつたが、引越しは楽になつた。東千田から西条への貨物運送は専門の業者が行うのであるが、自分達でもたいぶ運んだ。これは面倒であり疲れたが、研究の中断時間を短くできたし、予算の節約にも役に立つたものと考えている。特に壊れやすくて小型の物品は自分で運ぶに限るようである。

移転雑感

理学部生物学科植物学教室 吉田 和夫

植物学教室は四講座の研究室、図書室、学生実習室、植物園、温室、圃場及び資料庫の移転で完了する予定であつた。植物園、温室、圃場、資料庫は平成四年三月末に延期となり、学生実習室

困るのは移転後の図書館の問題である。動物学教室では新キャンパスの教室図書室には近着雑誌などのみを置き、蔵書の大部分は中央図書館に移すことにしているが、肝心の図書館の完成が遅れているので段ボールに入つたままの蔵書が教室図書室と会議室に山積みされている状況である。図書館の規模も当分の間予定より小さいままになりそう、大学のシンボルともいえる図書館がこの有り様では情けない話である。

不満をあげたら切りがないが、とにかく新しい建物にはいるのはいいものであるし、都会の喧噪を離れてきれいな空気を吸い、窓から山々を眺めながら研究の実績をあげたいものと考えている。